

# 経営戦略及びKPI (重要業績評価指標) の設定

- 1 「経営戦略」と「KPI」の位置付け
- 2 「経営戦略」と「KPI」の設定
  - (1) 医療の質と効率の視点
  - (2) 患者満足の視点
  - (3) 経営・財務の視点
  - (4) 職員の学習と成長の視点
  - (5) 社会貢献の視点

## V

経営戦略及び  
KPI（重要業績評価指標）の設定

## 1

## 「経営戦略」と「KPI」の位置付け

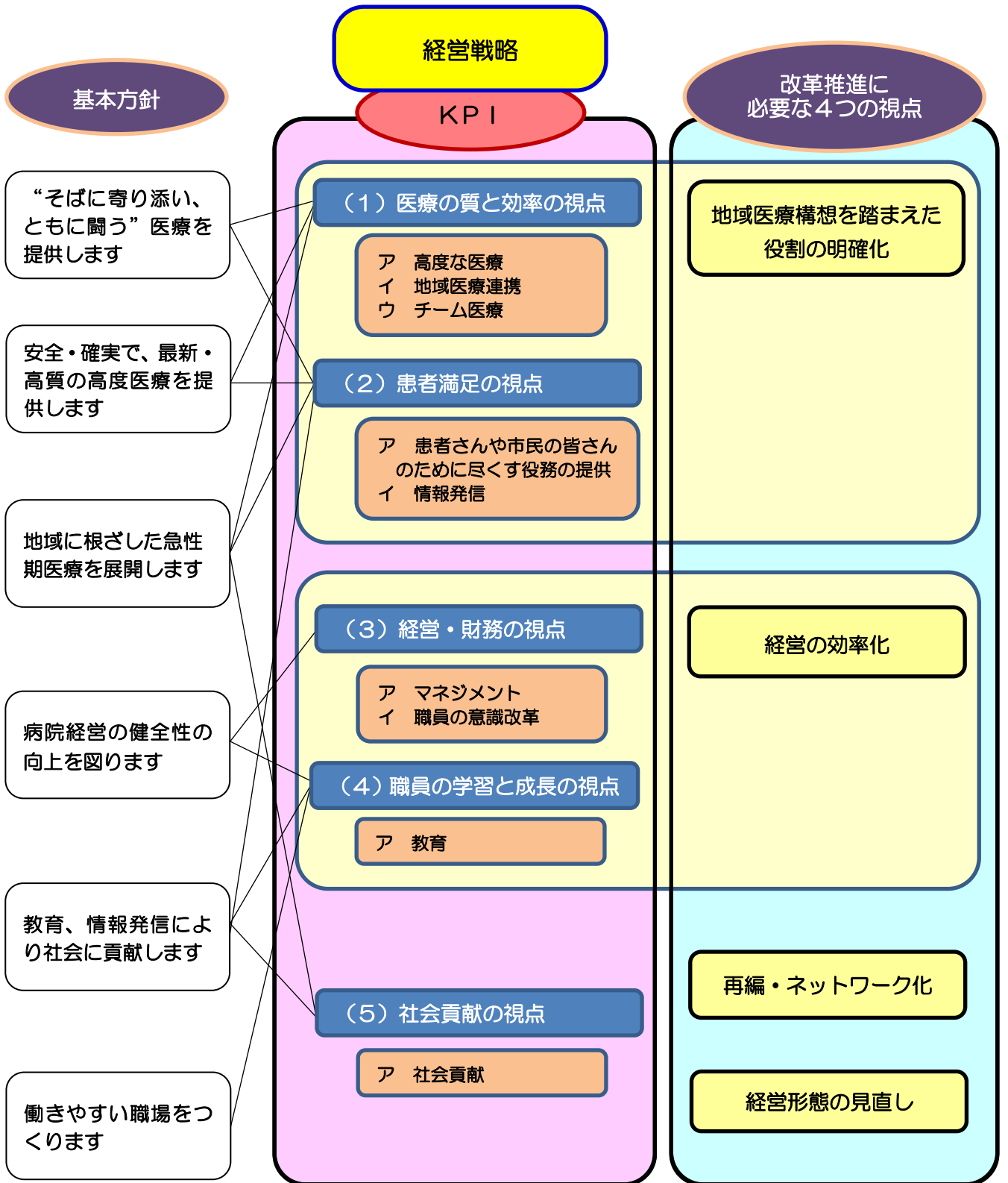
平塚市民病院は、令和7年（2025年）のあるべき姿として「持続的な健全経営の下、高度医療・急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」を「ビジョン」として目指す方向性を示しました。

この「ビジョン」を全職員が認識すると共に、市民の皆さんや行政等とも、これを共有していく必要があります。特に患者さんやその家族には、安心して受診いただけるよう丁寧な説明を行い、趣旨を御理解いただかなければなりません。

そこで、組織がビジョンに至るまでの基本設計や獲得したい価値を、「医療の質と効率の視点」、「患者満足の視点」、「経営・財務の視点」、「職員の学習と成長の視点」及び「社会貢献の視点」の5つの視点に整理し、「経営戦略」を設定しました。

また、高度にバランスが取れた病院経営を実現し、病院経営を確固としたものとするために、それぞれの経営戦略に、KPI（重要業績評価指標《key performance indicators》【※】）を設定し、全職員が目的や目標をしっかりと捉えて行動できるように、また、「第三者の目」でも随時チェックできるようにすることで、最先端の経営管理体制を整え、真に市民の皆さんに求められる病院を実現します。

「経営戦略」及び「KPI」の位置付け



## (1) 医療の質と効率の視点

(基本方針) “そばに寄り添い、ともに闘う” 医療を提供します  
安全・確実で、最新・高質の高度医療を提供します  
地域に根ざした急性期医療を展開します

(改革推進に必要な4つの視点)

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

超高齢社会(※)の進展に伴い、将来の社会保障制度や平塚市周辺地域の医療需要を研究・検証し、自立的・持続的な健全経営の下で、市民の皆さんのニーズに応える医療を実践する必要があります。高度医療(救命救急を含む)と政策的医療である小児・周産期医療(※)などを継続的に両立して担うことができるユニークな病院を目指し、高度にバランスが取れた病院経営を実現するため、最先端の経営管理体制を整え、真に市民の皆さんに求められる病院となることを目標とします。

医療の機能分化を推進し、市民の皆さんや患者さんに対して、積極的に情報発信を行うことに加え、地域のニーズに応える安全な医療を提供するために、職員が職種を超え、チーム一丸となって、厳しさと努力を繰り返した結果、地域からの平塚市民病院に対する信頼の声を実感し、その成果をチーム皆で称え合うことができる病院を目指します。

ア 経営戦略							
(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施						
(イ) 地域医療連携	地域医療連携の充実と指導的役割						
(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実						
イ KPI (※)							
区分	診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
(ア) 重症度、医療・看護必要度(※) (一般病棟)	○	○					
(イ) 救急搬送応需率、入院患者数	○						○
(ウ) 通院不要的退院率(※)	○						
(エ) 手術件数	○						
(オ) 紹介率・逆紹介率(※)	○						○
<b>KPI対象数</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2</b>

KPI

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟）

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門							
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
重症度、 医療・看護必要度 (一般病棟)	33.6	35.1	急性期一般入院料1（※）の施設基準（※）を満たします。					

(イ) 救急搬送応需率、入院患者数

単位：%・人

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
救急搬送応需率	98.7	98.6	現在の高い水準を維持します。				98.0
救急車搬送患者 入院患者数	2,725	2,747	増加を目指します。				3,000

★産科及び小児科（周産期）を含む。

(ウ) 通院不要的退院率

単位：%

【関係部門】	診療部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
通院不要的退院率	48.3	51.4	総合入院体制加算（※）2の施設基準を満たします。				

(エ) 手術件数

単位：件

【関係部門】	診療部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
手術件数 (中央手術室)	3,937	4,007	増加を目指します。				4,400
全身麻酔件数	2,764	2,911	増加を目指します。				3,100

## (才) 紹介率・逆紹介率 (※)

単位：%

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
紹介率	71.4	78.6	地域医療支援病院 (※) の承認要件を満たすとともに、				80.0
逆紹介率	98.4	108.0	地域医療連携を進め、高い水準を維持します。				100.0

## （2）患者満足の視点

（基本方針） “そばに寄り添い、ともに闘う” 医療を提供します  
 安全・確実で、最新・高質の高度医療を提供します  
 地域に根ざした急性期医療を展開します  
 教育、情報発信により社会に貢献します

### （改革推進に必要な4つの視点）

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

平塚市は、総合計画の重点課題に、「子育て支援」や「超高齢社会（※）への対応」を掲げ、市民の皆さんが幸せに暮らし続けるためには、これらへの対応力強化に取り組むことが必要であると考えています。

平塚市総合計画の重点施策においては、「子どもを産み育てやすい環境づくり」として、「結婚や出産の希望をかなえるとともに、安心して子育てができ、未来の宝である子どもたちが健やかに成長できるまちづくりを進めること」と、「いくつになってもいきいきと暮らすまちづくり」として、「『人生100年時代（※）』を迎える中、いつまでも生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めること」を掲げています。平塚市民病院は、これらの施策を推進するため、「周産期医療（※）や小児救急医療の体制維持と継続実施」「地域医療体制の充実」の実現に向け、地域の皆さんに、満足していただける医療を提供します。

また、「地域医療ニーズ」をしっかりと捉えて行動するために、全ての職員が職種を越えて連携し、公開講座や地域の医療機関との意見交換、勉強会の開催や情報発信など積極的に院外へ向け活動を展開します。これらを通して、患者さんからの意見を汲み取り、目に見える形で改善していくことで、地域医療ニーズに応え、患者満足の高い病院を目指します。

ア 経営戦略							
（ア）患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供						
（イ）情報発信	地域住民への情報発信の充実						
イ KPI（※）							
区分	診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
（ア）産科・小児科（周産期）の二次救急（※）当番実施率	○						
（イ）分娩件数	○	○					
（ウ）情報発信件数	○	○	○	○	○	○	○
（エ）患者満足度	○	○	○	○	○	○	○
<b>KPI対象数</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>

## KPI (※)

### (ア) 産科・小児科（周産期）の二次救急（※）当番実施率

単位：％

【関係部門】	診療部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
産科	100	100	小児、周産期の救急医療体制を維持します。				100
小児科	100	100					100

### (イ) 分娩件数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
分娩件数	450	510	分娩に対応できる体制を維持します。				500

### (ウ) 情報発信件数

単位：回・部

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
市民向け 出張講座開催数 (★)	16	9	引き続き情報発信を積極的に行います。				16
市民向け 院内講座開催数 (★)	42	34					60
医療機関向け 公開講座開催数 (★)	25	24					30
講演講師派遣数 (★)	71	74					80
ホームページ アクセス数	21,746	23,884					23,000
ホームページ 更新回数	326	357					360
病院広報誌 「Smile!」配布数	8,000	8,000					8,000

★「5 社会貢献の視点」にも再掲します。

★「市民向け院内講座」とは、「市民健康講座」「母親学級」等、市民の皆さんを対象として院内で開催するものをいいます。

★「医療機関向け公開講座」とは、オープンカンファレンス等、医療関係者（医師会等）を対象として開催するものをいいます。



## (工) 患者満足度

単位：点

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
入院	86.8	88.3	患者さんに、満足していただける医療を 提供します。				90.0
外来	79.5	81.4					85.0

★毎年度実施している患者満足度調査における総合評価の平均点数（100点満点）

### (3) 経営・財務の視点

(基本方針) 病院経営の健全性の向上を図ります

(改革推進に必要な4つの視点)

経営の効率化

良質な医療を提供するためには、経営の安定化が不可欠であることから、企業体として「独立採算」を目指し、収支バランスが取れた経営体制を構築しなければなりません。また公立病院として経営が安定することは、この病院の「信頼」と「質」を高めることにつながります。

一方で、市民の皆さんから求められている医療が不採算である場合、それを維持継続していくためには、市から負担金を受けなければ病院経営が立ち行かなくなります。この負担金の原資は「税金」であることから、「受益者」であり「納税者」でもある市民の皆さんに対し「納得のいく医療」を提供しなければなりません。救急、小児・周産期等の不採算になりやすい医療を安定的に維持・継続するために、地域医療のバランスや採算性を踏まえ、救急や紹介等を通じた新規入院患者を継続的に確保し、病床利用率の向上や診療単価の改善を行うとともに、担うべき診療科を見直すなど診療体制の再構築も視野に入れた病院運営を行います。また、必要な医療情報を公表するなど「高度な経営管理」が行える体制を整えます。

病院経営の健全性を図るためになくしてはならない要素は、「人材（職員）」であると考えています。最終的には職員一人一人が経営者となり、コスト意識をもって経営に参画することを目的に、「経営改善」「経費削減」及び「収入確保」のキーワードに対し目標設定をすることで、職員の意識改革を進め、経営の効率化を図っていきます。

ア 経営戦略								
(ア) マネジメント		健全経営の実施						
(イ) 職員の意識改革		全職員の経営参画への意識醸成						
イ KPI (※)								
区分		診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
(ア) 経営改善に係るもの	a 医業収支比率	○	○	○	○	○	○	○
	b 経常収支比率	○	○	○	○	○	○	○
(イ) 経費削減に係るもの	a 薬品費対医業収益比率	○		○				○
	b 診療材料費対医業収益比率	○						○
	c 職員給与費対医業収益比率	○	○	○	○	○	○	○
	d 後発医薬品(※)の使用割合	○		○				○

区分		診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
(ウ) 収入確保 に係るもの	a 1日当たり平均入院患者数	○						○
	b 1日当たり平均外来患者数	○						○
	c 入院診療単価	○						
	d 外来診療単価	○						
	e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入	○	○					
	f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入	○	○					
	g 病床利用率	○	○					
	h 平均在院日数	○	○				○	
KPI対象数		14	7	5	3	3	4	8

KPI

(ア) 経営改善に係るもの

病院経営の根幹となる「資力」を維持向上するために必要な指標を設定します。

a 医業収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
医業収支比率	90.9	90.2	90.8	91.1	91.8	91.6	91.8

b 経常収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
経常収支比率	100.9	99.6	99.6	99.8	1000以上	1000以上	1000以上

## (イ) 経費削減に係るもの

医療の高度化に伴い、材料費などの高騰が予測される中で、「資力」を維持し、「経営の効率化」を図るため、経費を削減するために必要な指標を設定します。

### a 薬品費対医業収益比率

単位：％

【関係部門】	診療部門、薬剤部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
薬品費 対医業収益比率	10.3	11.7	現在の低い比率を維持します。				11.5

### b 診療材料費対医業収益比率

単位：％

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
診療材料費 対医業収益比率	10.6	10.7	現在の低い比率を維持します。				10.7

### c 職員給与費対医業収益比率

単位：％

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
職員給与費 対医業収益比率	61.2	61.3	増加の抑制に努めます。				60.0

### d 後発医薬品（※）の使用割合

単位：％

【関係部門】	診療部門、薬剤部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
後発医薬品の 使用割合	94.3	94.4	後発医薬品使用体制加算（※）1の 施設基準（※）を満たします。				

★使用量ベースによる割合

**(ウ) 収入確保に係るもの**

「資力」を向上し、「経営力の強化」を図るため、収入を確保するために必要な指標を設定します。

**a 1日当たり平均入院患者数** 単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
1日当たり 平均入院患者数	350.1	348.9	371.8	373.1	373.6	373.5	373.4

**b 1日当たり平均外来患者数** 単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
1日当たり 平均外来患者数	846.2	829.0	792.9	783.7	771.5	756.2	741.3

**c 入院診療単価**

【年間入院収益／年間延べ入院患者数】

単位：円

【関係部門】	診療部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
入院診療単価	66,953	67,307	68,205	68,654	69,102	69,551	70,000

**d 外来診療単価**

【年間外来収益／年間延べ外来患者数】

単位：円

【関係部門】	診療部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
外来診療単価	14,341	15,463	16,238	16,712	17,155	17,573	18,000

e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入

【年間入院収益／医師数または看護師数】

単位：千円

【関係部門】	診療部門、看護部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
医師	89,911	93,065	増加を目指します。				93,000
看護師	22,247	21,776					22,000

★看護師数には、助産師を含む。

f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

【年間外来収益／医師数または看護師数】

単位：千円

【関係部門】	診療部門、看護部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
医師	31,123	33,722	現在の状況を維持します。				31,600
看護師	7,700	7,890					7,500

★看護師数には、助産師を含む。

## g 病床利用率

単位：％

【関係部門】	診療部門、看護部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
全体計	92.2	87.6	高い水準を維持します。				91.1
一般病床	97.3	91.5					95.7
産科病床	85.8	82.9					84.8
小児科病床	62.7	61.2					58.7
ICU/CCU（※） （集中治療室）	70.8	67.5					68.8
NICU（※） （新生児特定集中治療室）	41.0	63.0					55.1
GCU（※） （継続保育治療室）	51.9	73.4					64.9
救急病床	86.1	77.2					80.3

## h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】	診療部門、看護部門、地域医療支援部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
平均在院日数	10.2	10.4	短縮を目指します。				9.5

## (4) 職員の学習と成長の視点

(基本方針) 病院経営の健全性の向上を図ります  
教育、情報発信により社会に貢献します  
働きやすい職場をつくります

(改革推進に必要な4つの視点)  
経営の効率化

安定した病院運営を行うために、なくてはならない要素は、良質な「人材（職員）」であると考えています。

全ての職員が、地域ニーズを的確に捉え行動するために、「この病院はどうあるべきか」、「地域から信頼されるためにはどうしたらよいか」を考えて行動する力を修得できるように、平塚市民病院は職種を超えた「チーム力」を備えるモチベーションが高い人材を育成し、「医療」の質に加え、「人」としての質と「組織」としての質を高めることができる風土作りを醸成します。また、医師を中心として人材の確保が難しく、また働き方改革が求められている中で、質の高い人材を確保する点からも多様な働き方への対応、教育体制の充実や社会貢献などにより、職員が成長を実感できる魅力ある職場環境を整える必要があります。

その結果、地域からの信頼を獲得するとともに、「やりがい」や「達成感」が共有でき、誇りを持って仕事ができる病院を目指します。

ア 経営戦略							
(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得 （職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）						
イ KPI (※)							
区分	診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
(ア) 職員向け院内研修会の参加数・開催回数	○	○	○	○	○	○	○
(イ) 有資格者数	○	○					
(ウ) 臨床研修医マッチング率	○						○
<b>KPI対象数</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>



## KPI

## (ア) 職員向け院内研修会の参加数・開催回数

単位：回

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
職員向け院内研修会の 1人当たりの参加数	4.2	4.3	引き続き職員に学習の場を提供し、 質の高い人材の確保、育成を目指します。				6
職員向け院内研修会の 開催回数	49	53					55

★「職員向け院内研修会」とは、3つ以上の部門の職員が受講可能な、院内で開催される研修会及び講習会（eラーニング等によるフォローアップも含む。）をいいます。

★新採用職員研修及び階層別研修は除きます。

## (イ) 有資格者数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
基本領域専門医数 (※)	56	46	資格を有する職員を確保、育成し、 増加を目指します。				50
認定看護師数 (※)	16	17					23

## (ウ) 臨床研修医マッチング率

単位：%

【関係部門】	診療部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
臨床研修医 マッチング率	100	100	魅力ある研修環境の整備により、 高い水準を維持します。				100

## (5) 社会貢献の視点

(基本方針) 地域に根ざした急性期医療を展開します  
教育、情報発信により社会に貢献します

平塚市民病院は、公立病院として広く市民の皆さんのために、積極的に地域活動や人材育成などの社会貢献活動に参加協力します。

また、災害拠点病院(※)、第二種感染症指定医療機関(※)などの機能を有しており、災害等の場合には地域で必要とされる医療を担うことを優先し、対応します。

ア 経営戦略							
(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療(※)、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)						
イ KPI(※)							
区分	診療部門	看護部門	薬剤部門	医療技術部門	医療安全管理部門	地域医療支援部門	事務部門
(ア) 社会貢献活動の実施数	○	○	○	○	○	○	○
(イ) 学会及び論文研究発表件数	○	○	○	○	○	○	○
(ウ) 学生実習受入人数	○	○	○	○			
(エ) 講座及び講演数	○	○	○	○	○	○	○
<b>KPI対象数</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

### KPI

#### (ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
救急ワークステーション(※) での医師出動件数	150	208	引き続き災害拠点病院としての 役割を果たすとともに、 救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				150
災害医療関係行事数	9	10					10
救急救命士(※) 病院実習受入人数	84	72					85

## (イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
診療部門	220	214	引き続き研究成果を社会に還元します。				230
看護部門	10	8					10
その他	19	19					20

## (ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
医師	15	16	引き続き人材育成に取り組みます。				16
看護師・助産師	466	416					470
薬剤師	2	5					5
リハビリテーション 技師	8	4					6
放射線技師	2	4					2
臨床工学技士	13	9					10
臨床検査技師	3	3					3
管理栄養士	10	8					10

## (工) 講座及び講演数

単位：回

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、 地域医療支援部門、事務部門						
区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
市民向け出張講座開催数(★)	16	9	引き続き積極的な 情報発信を行います。				16
市民向け院内講座開催数(★)	42	34					60
医療機関向け公開講座開催数(★)	25	24					30
講演講師派遣数(★)	71	74					80

★「(2) 患者満足の視点」にも掲出しています。